

演出の記録「ゆらゆら。」2021 県大会より

2025 年 9 月 7 日 久保山ワタル

演劇の面白さは「演出を発見すること」にある。

・舞台装置

後ろに 11 個の椅子。さらに後ろにプロジェクター。このシンプルな演出装置と 11 人の女子生徒たちで物語を作っていく。何が始まるんだろうというわくわく感。



・同時多発会話

2 つのグループ(最大で 3 つのグループ)が同時多発会話する。セリフは全部聞こえなくても、役者の雰囲気で何が起きているかを伝える。役者は動きを止めず、常に「ゆらゆら」している。



・会話中に別ごとをする

練習中に役者の周りに虫が来て、それを追い払おうという動作を、演出がそのまま採用した。右から 4 人目の役者(堀口)。



・役者がバラバラに立ち、一人ずつリレーでしゃべる

何を表しているか分からない。ただ演出さんが面白いからやったんだと思う。その間役者は全員力を抜いて「ゆらゆら」する。だんだんとリレーのペースが上がってくる。絶対に固まらない。ばらけることを意識しながら、自分のセリフには自分で考えた動作をつけながら動く。



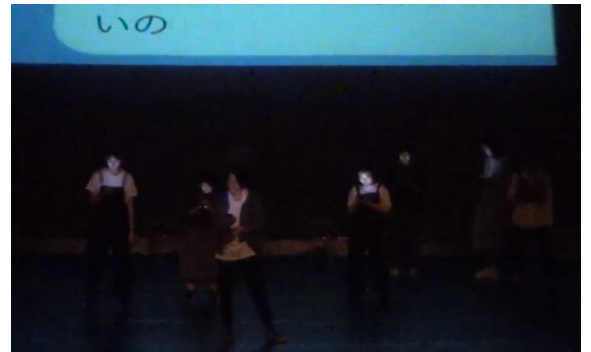
・ゆらゆら揺れる

バラバラからいつの間にか整列し、センターの一人がセリフを言う中で他 10 人は並んで前後にゆらゆら揺れる。



・LINE を読む

劇中の照明を消して全員の顔がぼんやり見えるようにした。全員がスマホを持っているので、このシーンができる。



・教室のシーン

寝ている人、ふらふらしている人、友達と会話している人、膝に載っている人など、教室のカオス感を出す。

演出さん曰く、「学校のシーン」は絶対必要。「銀河鉄道の夜」でもそう、と言う。多分、主人公の置かれている状況を表現するには必要なのだろう。見た目も面白いシーンになった。



・藤原の飛び蹴り

学校のシーンの終盤で、大変だと藤原がやってくる。なんだか分からないが、そのうち藤原が飛び蹴りする。何か分からないけど、お客さんの想像力が掻き立てられる。



・モンローさんを囲む集団演技

バイト先のモンローさんの紹介を堀口がして、劇中劇っぽいものが始まる。訳が分からないが面白い。見てしまう。



・幣の上を歩く

11 この椅子を幣に見立てて、かな子ちゃんが歩く。ネコ君と会話しながら。不思議なシーン。ネコ君の文字が車のヘッドライトの向こうから浮き上がってきて、特別な友達感がする。



・道路の向こう側とこっち側の会話

劇中で、一番遠い距離。道路を挟んで会話しているのがよくわかる。ミザンスが面白い。



・奥村のアナウンサーと丸屋のインチキ評論家
なんか役者の個性をうまく生かして面白い。



・藤原の魂を吸い取るシーン

短期間に1年生の個性を見抜いて、役をうまく当てている。



- ・3人ずつでかな子ちゃんのお父さんとお母さん
ユニゾンでやり取りするのが、学芸会みたいで面白い。



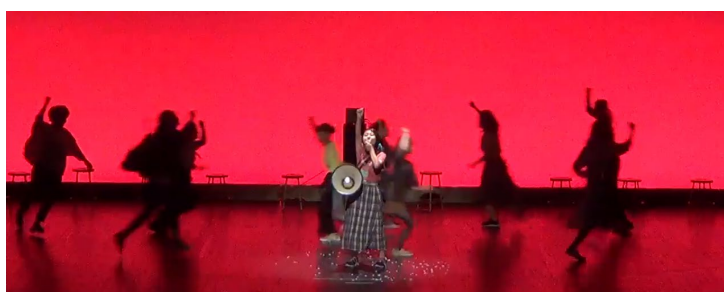
- ・5人ずつでさらにパワーアップ
足音も入れてユニゾンでガンガン攻める。
1年生が考えたらしい。



- ・宇野と奥村の見せ場
全員にセリフをつくり、前に
出るシーンを作る。この後の
結婚式も面白い。11人いる
となんでもやれる。



- ・シルエットを入れたランダムウォーク
林以外には光を当てず、ランダムウォーク
しながらセリフはあるって感じ。きれいで印
象的。



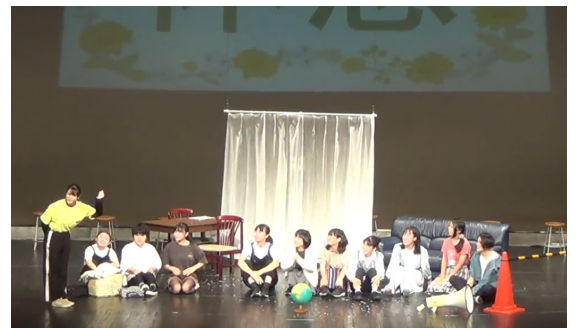
- ・セットができている
出番のない役者がセットを運び込んだり、バトンが下
りてカーテンが下りてきたりして、話を進めながら家
のシーンの場転ができている。



- ・ガザの空爆の映像をバックに、地球儀を挟んで
カーテンを下ろしたことで家の中の感じが出る。照明のハレーションも受けて、きれいに二人が決まる。印象的な「絵」を作った。



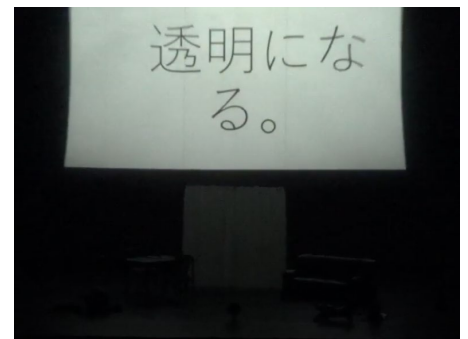
- ・深刻なシーンの前に休憩
隠し芸大会を行う。時々メタを見せて、役者への親しみが
増す。



- ・泥沼の争いの中に上がっている「日の丸っぽいもの」
たぶん、物事を深く考えない日本人を抽象的に批判
している。地球儀をそのまま残しているのが、国際社
会の中での日本の立ち位置を表している。。

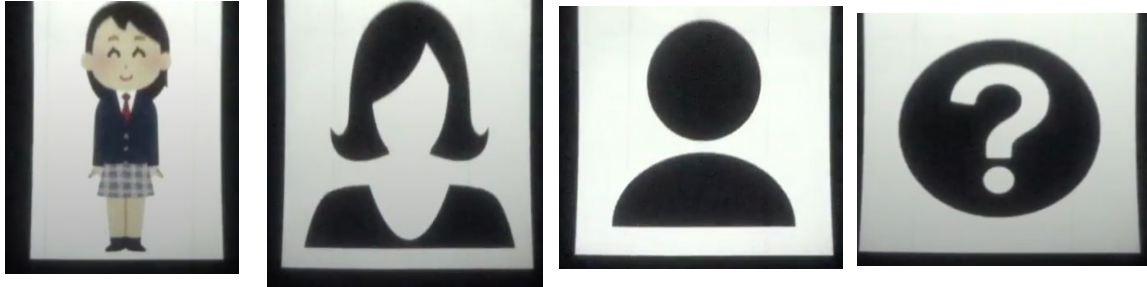


- ・カーテンが胴体に見える
多分偶然だと思う。
パワーポイントを使いまくる。



- ・抽象化を使う。

人間にとって、一番つらいのは自分が抽象化されたとき。例えば戦争によって、ただの兵士だったり死者だったりにされるとき。セリフに乗せてスライドの中の人物が抽象化されることで、観客の心にかな子の悲しみが伝わる。



- ・効果マシーンの使用

かな子とネコ君の会話が、次々と異なるペアの役者で展開する。だんだんといろんなものが増えていく。絵がおとぎ話の中のように、Haruka Nakamura の曲と合わせて印象的。



- ・全員でゆらゆら

ボールやらで散らかしまくって、全員でゆらゆら。幻想的な見たことないシーンとなる。



- ・イルミネーションの使用

青のイルミネーションで海をイメージした。



- ・ストップモーション

小林が叫んだ瞬間に全員ストップモーション。きれいに決まる。



・合唱「歌うたいのバラッド」

合唱することで爽やかなラストになった。

最後のかな子を送り出し、谷口が叫ぶシーンも心に来る。

